

レジリエントな歴史文化都市づくりへ向けた未来への歴史資産の継承・保全政策とそのコスト負担という財政と住民生活の経済発展とコミュニティ継承のトリレンマに関する国際比較による調査研究 都市レジリエンス国際比較研究プロジェクト

プロジェクト代表者：政策科学部・教授 鐘ヶ江 秀彦

共同研究者：豊田 祐輔、小野 聡

【研究目的・成果の概要】

本研究では、レジリエントな歴史文化都市づくりへ向けた未来への歴史資産の継承・保全政策と、そのコスト負担という財政と住民生活の経済発展とコミュニティ継承のトリレンマに関した調査研究を実施した。本年度は、主に、1) 海外のレジリエント・シティ形成に関する調査研究、2) インドネシアとタイ、日本のケースをもとにした住民の防災教育とレジリエンス強化ゲーミング・シミュレーション、3) 日本地域学会全国大会ならびに2017年立命館土曜講座における特別セッションの3つの研究課題を遂行した。

【研究成果の詳細】

本年度は、主に、米国、台湾、イタリア、オランダ、タイ、インドネシアなどを対象に、現地におけるフィールド調査、ヒアリング調査、学会のセッション開催、ワークショップやゲーミング実験などを実施し、レジリエントな歴史文化都市づくりへ向けた日本と海外の都市の国際比較により、異なる地域・国の歴史都市の文化遺産の保存継承活用における課題やアイデアを共有し、歴史都市保存継承の特徴や形態を明らかにするとともに、レジリエントな社会を実現するための自然災害に対する緩和、文化遺産の保全と経済発展、都市開発との相克、低炭素社会、自然共生など地球環境活動への適応などの様々な課題の対応策を検討した。

1) 海外のレジリエント・シティ形成に関する調査研究（米国、台湾、イタリア、オランダ）

オレゴン州最大の人口を有するポートランド市、ビバトン市（ポートランドのベッドタウン）の公助としての防災計画と、共助としてのコミュニティでの防災体制構築やその準備を大規模に行なっているその調査と共に、2017年10月24日～27日に国際都市地域計画学協会とアメリカ計画学会の共同によりポートランド市で開催された国際会議において、6つの専門分野における4番目のテーマ“Track 4: Resilience, adaptation and disaster mitigation”の開催責任者として、鐘ヶ江はこの都市防災とレジリエンスに関する国際学会の査読、総合座長、好評、報告を行った。また、2017年5月に鐘ヶ江、豊田、小野は連名で近年地震が頻発する台湾における調査と学会発表（台南市）を行い、次いで、国際シミュレーション&ゲーミング学会（オランダ・デルフト市）において2017年7月に防災ゲーミングに関する学会発表を行なった。2017年の9月と2018年2月には歴史都市防災研究所とラクイラ大学との調査研究連携協定に基づき、イタリア中部地震の共同調査と相互の研究者派遣を行った。

2) インドネシアとタイ、日本のケースをもとにした住民の防災教育とレジリエンス強化ゲーミング・シミュレーション

豊田を中心に、鐘ヶ江と小野は、インドネシアにおいて、伝統的知恵を「知恵の獲得方法（伝承・経験）」、「側面（技術・信条）」、「実践（共通・特別）」の3つに分類し、2004年津波被害を受けたメンタワイ島における防災に関わる伝統的知恵を収集した。さらに、住民参加型ワークショップより、どのタイプの知識が科学的知識と親和性があるかをランク付けすることで、伝統的な防災の知識と近代的な科学知識の統合へ向けた基礎情報を整えた。これは、例えば経験を通じた学習ツールであるゲーミング・シミュレーションなどを通じて、ある地域の伝統的な防災の知恵を他地域に応用する際の選別基準となる。伝統的な防災の知恵をゲーミング・シミュレーションに実装することによって、国家や文化を超えた防災の知恵の共有や応用を図ることが期待できた。

日本においては、政策科学部の都市計画の授業における洪水を防ぐためのスーパー堤防の防災計画と、合意形成のゲーミングを実施した。この成果は日本シミュレーション&ゲーミング学会の秋大会（2017年11月札幌市）において報告を行った。

タイにおいては、2014年洪水の被害を回避できた、神社仏閣などの地域の文化遺産を有する京都府南丹市での災害対応の事例が、防災教育ツールであるゲーミング・シミュレーションを通じて、タイ王国ナン県の洪水多発地域に居住する住民が学習できることを明らかにした。特にタイにおいては行政からの支援が期待できないことから自助・共助が重要となる。ナン県におけるコミュニティ活動の実績が異なる3つの地域コミュニティ（地域防災が活発な地域、地域防災を進めている地域、地域防災が進んでいない地域）を対象にゲーミング・シミュレーションを実施し、ゲーミング・シミュレーションが地域コミュニティの地域活動実績をうまくゲーム上で再現できることよりゲーミング・シミュレーションの妥当性を示した。さらに、社会的レジリエンスを評価指標として2度のゲームプレイを通じて、多くの指標が向上することを明らかにした。

3) 日本地域学会全国大会ならびに2017年立命館土曜講座における特別セッション

鐘ヶ江と豊田、小野は大会組織委員として、日本地域学会全国大会の開催を行うと共に、防災とレジリエンスに関わる3つの特別セッション「近未来のレジリエント&サステイナブル・シティ」を2日間にわたって開催し、全員が発表を行った。同時に日本地域学会全国大会と歴史都市防災研究所との共催による特別シンポジウムを、2017年立命館土曜講座（拡大公開シンポジウム）として2017.10.07（土）14:00～17:00「歴史都市保全と文化財保護政策」と題して、基調講演とパネルディスカッションを開催した。

まず、京都美術工芸大学の学長および立命館大学歴史都市防災研究所の客員教授も務める冷泉為人氏（冷泉家第25代当主）にお願いして「京都・若狭文化財の継承保存と文化行政」と題した基調講演を受け、鐘ヶ江の座長・司会により、文部科学省大臣官房付文化庁地域文化創生本部事務局長の松坂浩史氏と大窪健之（歴史都市防災研究所所長）氏と冷泉為人氏による「歴史都市保全と文化財保護政策」に関するパネルディスカッションを開催した。